①大沢住区の景観の特性

自然

◆国分寺崖線の緑と水を感じる景観

国分寺崖線の緑や野川の清流は、三鷹を代表する自然です。起伏に富む地形と豊かな植生が一体となり、市内でも他に類を見ない、壮大な自然が展開しています。富士山への眺望点や湧水も多く存在します。

農

◆大規模な緑地の間を補完する農地

大沢住区の農地は、国分寺崖線の斜面緑地や国立天文台、国際基督教大学などの大規模な緑地の間に広がっており、緑をつなげています。

大沢地区の農地

◆受け継がれる農のある風景

湧水や野川の清流により育まれたわさび田や水田が見られるのは、市内でも大沢住区だけで、特にわさび田は都内でも珍しい景観です。

また、住宅地の中には、大沢雑木林公園など、保存樹林に指定されている雑木林が、公園として残されているところもあります。周囲の住宅地の庭の緑、生け垣の緑と連担して、貴重な緑をつくりだしています。

◆市民農園

農業として営まれている農地だけでなく、大沢市民農園では、市民が土に触れ合いながら農に対する理解を深める場を提供しています。このように、市民が関わる農のある風景も見ることができます。

歴史・文化

◆武蔵野の面影の残る人見街道

人見街道沿いには、農家の屋敷林の名残を感じるケヤキ並木が残っており、屋敷や土蔵なども見ることができます。

また、沿道には社寺も多く、近藤勇の墓のある「龍源寺」、「大沢八幡神社」及び「二子塚神社」などが接しています。

◆歴史・文化的建造物や桜並木などの見られる研究・教育機関

国分寺崖線上には、「国立天文台」、「国際基督教大学」、「ルーテル学院大学」及び「東京神学大学」など、大規模な研究・教育機関の敷地が存在します。これらは、大規模な緑地であるとともに、国立天文台の旧官舎を利用した「星と森と絵本の家」、国際基督教大学の敷地内にあり昭和初期に別荘として建てられた「泰山荘」及び村野藤吾設計の「ルーテル学院大学の礼拝堂」など、歴史・文化的に価値のある建造物が、多く存在しています。

また、国際基督教大学の桜並木など、地域の人々に愛されている多くの景観資源が存在します。

国際基督教大学の敷地内に残る
泰山荘(大沢 3-10)

◆武蔵野地域の水車経営農家やわさび栽培農家が残る貴重な景観

「新車（しんぐるま）」と呼ばれる峯岸家の水車は、文化５（1808）年頃

大沢の里水車経営農家
（大沢 6-10、東京都指定有形民俗文化財）

創設され、多機能性を持つ両袖型の大型水車で、規模・形式ともに東日本を代表する営業用水車です。昭和 43(1968)年頃に水車の稼働は停止しましたが、水車とともに、母屋・カッテ・土蔵・物置などの建物や水車用用水路跡なども現存しています。

大沢の里古民家(大沢 2-17、三鷹市指定有形文化財)

また、大沢の里古民家は、明治 35(1902)年に創設され、わさび栽培や養蚕を行っていた典型的な四つ間取りの農家です。昭和 40 年代にわさびの出荷は中止となりましたが、現在はわさびの保全活動に取り組んでおり、古民家からわさび田を見ることができます。100 年以上前から同じ場所にあり続ける貴重な景観が存在します。

◆国立東京大学馬術場

野川近くに位置する国立東京大学馬術場は、大沢風致地区内に位置しています。馬術部の練習場として昭和 40 年に整備され、閑静で自然豊かな場所となっています。

にぎわい

◆大規模な緑地と一体となった緑豊かな天文台通り

天文台通りは、国立天文台や国際基督教大学と接しており、自然や歴史・文化の景観との連続性を形成するうえで、重要な幹線道路です。街路樹や植栽帯が設けられており、沿道の自然や歴史・文化の景観との調和が図られています。

緑地帯や大規模敷地の接する天文台通り
(大沢 1-16 付近)

また、国立天文台付近では、天文台通りは谷線を通っており、擁壁が設けられているところも多いですが、擁壁には、緑化が施されるなど、配慮がされています。

緑地帯や大規模敷地の接する天文台通り
（大沢 3-9 付近）

◆大沢グラウンド通りの桜並木

大沢グラウンド通りは、桜並木が整備されており、春には、桜の景観を楽しむことができます。また、近くには、水路跡が帯状の緑をつくっています。

◆東八道路

市の東西都市軸である東八道路は、西部の野川公園と東部の玉川上水をつなぎ、広い歩道と街路樹が整備されたにぎわいの景観の骨格です。

コミュニティ

◆大規模な緑地のまわりに広がる住宅地

国分寺崖線上の大規模な緑地のまわりに広がる住宅地の多くは、斜面に立地しており、地形の起伏と豊かな緑のある住宅地のまち並みが広がっています。

◆野川公園、武蔵野の森公園などの大規模な公園

国際基督教大学のゴルフ場が前身の野川公園では、長年育まれた樹々を見ることができます。また、非常に大きな木の揃う桜並木も存在します。

武蔵野の森公園は、調布市にも跨る都立公園です。調布飛行場を望むことのできる開放的で緑豊かな空間が広がっています。

調布飛行場を見渡せる武蔵野の森公園
（大沢 6-11）

◆緑豊かな住宅地として計画された大沢三丁目

「大沢三丁目環境緑地整備地区地区計画」は、計画的に開発された大沢三丁目の住宅地に都市計画決定されています。道路と民地との境界部分が緑化され、緑被率の高い住宅地のまち並みがつくられています。

大沢三丁目の住宅地入口のさくらの杜公園
（大沢 3-11）

②大沢住区の景観の課題

【豊かな自然環境の保全とまち並みの調和】

国分寺崖線の豊かな自然の保全や周辺の住宅地のまち並みと、農地の調和が求められています。

【富士山等への眺望の保全】

第七中学校付近の階段など、国分寺崖線上からの富士山への眺望の保全が求められています。国分寺崖線下の建築物等の形態・意匠の配慮や周辺自治体との広域連携が必要です。

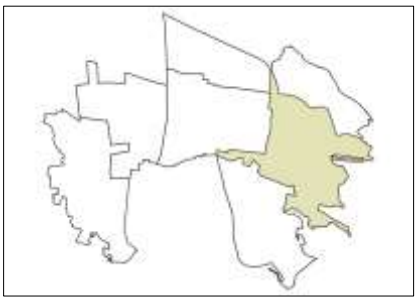
【古民家などの景観資源の保全と育成】

貴重な古民家などの歴史・文化的資源を保全するとともに、適切な活用を図り、人が関わる景観として育成していくことが、求められています。

【国立天文台周辺地域のまちづくり】

「国立天文台周辺地域土地利用基本構想」に基づき、羽沢小学校・大沢台小学校・西部図書館・学童保育所を天文台敷地北側ゾーンに移転し、隣接する第七中学校敷地を含め、地域の共有地「おおさわコモンズ」の創出を計画しています。「おおさわコモンズ」では、周辺の樹木と調和した施設や適切な維持管理により保全された都市の里山づくりに取り組むとともに、羽沢小学校等の跡地利用の検討においては、周辺の居住環境や景観と調和した良好な市街地環境を形成する必要があります。

（２）東部住区



東部住区は、牟礼地区と北野地区の全域、新川地区の一部で構成された住区です。牟礼の里付近の標高が市内の最高点となっており、見晴らしの良い起伏のある農地が玉川上水と一体に広がっています。北野地区の広大な大地には、農地や屋敷林、雑木林が残っており、武蔵野の面影が感じられます。

一方、「東京外かく環状道路中央ジャンクション（仮称）」の整備など、大きな景観の変化が予想される住区でもあります。

小学校の校歌には、「土の匂い」、「くろ土かおる」及び「大地の香り」など、農のある風景を思わせる歌詞や「けやきの緑」、「三鷹の杜」など、屋敷林や鎮守の森を思わせる歌詞が見られます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
三鷹の森学園	・玉川のきらめく水 ・カワセミ ・牟礼の丘	・たなびく雲 ・キジバト	・のぼる朝日 ・ハヤブサ
東三鷹学園	・若葉 ・三鷹の杜	・けやきの空青 ・風	・草のかおり ・土の匂い
高山小学校	・丘	・けやきの緑	
北野小学校	・むさし野 ・くろ土かおる	・風と花 ・富士が嶺	・しら雲ながる ・鳥と星
第一小学校	・風 ・鳥	・のびる芽 ・竹	・春の日 ・空
第三中学校	・若みどり ・風 ・武蔵野野辺	・朝やけの彩る光 ・大空 ・そびえる富士	・武蔵野 ・大地の香り
第六中学校	・富士が嶺	・けやきの梢	・木の間の陽ざし

①東部住区の景観の特性

自然

◆樹々の緑が豊かな玉川上水

東部住区の北東の端を流れている玉川上水は、樹々の緑が豊かで、地域の人々の散歩コースなどになっています。

農

◆牟礼地区の農地

牟礼の里に代表される牟礼地区の農地は、玉川上水、連雀通り及び人見街道などの歴史ある軸線の周囲に農地、屋敷及び屋敷林がまとまりのある農のある風景を形成しています。

牟礼地区の農地と屋敷

◆北野地区の農地

広大な平地に広がる北野地区の農地は、北野公園などの雑木林と一体となって景観を形成しています。

また、北野ハピネスセンター前のケヤキ並木など、屋敷林の面影を感じる景観も残っています。

北野地区の農地

歴史・文化

◆古道の趣を残す人見街道と連雀通り

人見街道や連雀通り沿いには、社寺、屋敷及び雑木林が残り、農をなりわいとしていた歴史を感じる景観資源が残っています。街道自身も湾曲しており、古道の趣を残しています。

◆牟礼たんぼと武蔵野の面影

現在の三鷹台団地の付近には、かなりの広さ(12～20 町歩)の「牟礼たんぼ」があり、玉川上水の良い水のおかげで、質の良い米が多くとれたようです。

約 300 年間耕作された牟礼田んぼは、昭和 35 年に埋め立てられ、後に三鷹台団地ができました。

なお、建て替えられた三鷹台団地では、「ビオトープ」が整備されるなど、武蔵野の面影を残す景観づくりが行われています。

三鷹台団地のビオトープ(牟礼 2-14)

にぎわい

◆東西都市軸である東八道路

市の東西都市軸である東八道路は、西部の野川公園と東部の玉川上水をつなぎ、広い歩道と街路樹が整備されたにぎわいの景観の骨格です。東側の交通開放が完了し、周辺には農のある風景も広がっています。

コミュニティ

◆集合住宅団地

牟礼団地周辺には、成長した桜の木や弘済園通りの桜並木などが見られ、地域の人々が愛着を感じています。

都営牟礼六丁目アパート北側の桜並木
(牟礼 6-25)

◆草花香る花と緑の広場

道路の事業に伴い暫定的に整備され、開放されている「花と緑の広場」は、創り上げられた公園ではなく、みんなの手で創っていくという点が特徴です。ボランティア花壇やボランティアによる庭づくり、種まきから行う花畑など、市民が花や緑に触れ合いながら楽しむことのできる広場となっています。

◆中川遊歩道

中川遊歩道は、暗渠になっている中川の上に整備された遊歩道です。北野二丁目付近では、周囲に広がる農地と一体となった景観をつくりだしています。

農と一体となった中川遊歩道(北野 2-2)

②東部住区の景観の課題

【農地の減少】

徐々に減少している農地を守るため、営農環境の保全や農の継承が求められています。

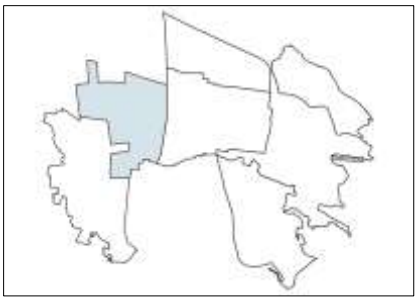
蓋かけ上部空間とその周辺地域（イメージ）

また、北野地区における「東京外かく環状道路中央ジャンクション（仮称）」の事業区域約 19ha においては、約 6ha の農地が減少しています。そのため、ジャンクション蓋かけ上部空間等とその周辺地域を新たなふれあいの里である「北野の里（仮称）」と位置付け、緑と農のある景観づくりを進めています。

【集合住宅団地の建替えなどに合わせた景観づくり】

大規模集合住宅団地の建て替えや道路の新設・拡幅などに伴う建築物の建て替えの際に、周辺の緑や農、まち並みに配慮した景観づくりを進めていくことが求められています。

（３）西部住区



西部住区は、住宅地の中に武蔵野の面影を感じる農地、屋敷林、雑木林及び社寺などが見られる住区です。連雀通りや人見街道の沿道には、ケヤキ並木や土蔵など、昔を偲ばせる景観が垣間見られます。井口小学校の「シンボルツリー」であるサワラの木は、貧しかった昔に、この地域で風呂桶をつくるために育てられていました。現在も直売所など農に触れる環境が残る一方、マンション化などによる農地の減少や調布保谷線の整備など、少しずつ景観の変化が進んでいる住区です。

小中学校の校歌には、井口地区のシンボルである「さわらの木」がよく出てきます。ほかにも「狩場の空」など、江戸時代からの歴史を感じる歌詞を見ることができます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
にしみたか学園	・さくら	・さわら	・あかまつ
第二小学校	・朝風かおる ・武蔵野 ・そよぐみどり	・富士が嶺 ・狩場の空 ・きおえる鷹	・八千草 ・花
井口小学校	・花	・さわらの木	・風
第二中学校	・富士 ・林 ・武蔵野	・大空 ・小鳥	・風 ・朝日

①西部住区の景観の特性

自然

◆大沢青少年広場やなんじゃもんじゃの森

西部住区には、なんじゃもんじゃの森など、住宅地の中で個性ある公園・緑地が存在しています。

なんじゃもんじゃの森(野崎 2-13)

農

◆連雀通りを中心に開墾された新田の面影

南北に長い地割に残る農地は、連雀通りを中心に開墾された新田の面影を感じることができます。

また、井口小学校の校庭には、「シンボルツリー」としてサワラの木が植えられており、開墾の歴史を感じる景観が大切に育まれています。

井口地区の農地

◆農作物の直売所

住宅地の中に農地が点在している西部住区では、直売所などが数多く設置されており、農を身近に感じることができます。

歴史・文化

◆連雀通りと人見街道

連雀通りや人見街道沿いには、大鷲神社などの社寺や屋敷林の面影を感じるケヤキ並木など、歴史を感じる景観資源が残されています。

大鷲神社(井口 1-1)

◆社寺や文化財

御嶽神社、井口八幡神社などの社寺や鷹場標石など、市街化が進む中でも歴史の面影を感じることのできる景観資源が点在しています。

また、西部住区には、井口四丁目の連雀通りの脇にある馬頭観音や井口一丁目の庚申塔など、人々に愛されている石造物が現存しています。

井口八幡神社(井口 1-9)

にぎわい

◆武蔵境通り、天文台通り及びかえで通り

武蔵境通り、天文台通り及びかえで通りは、南北の幹線道路として、街路樹が整備されたにぎわいの景観の骨格です。

また、かえで通りには、通りの名称の由来である、かえで並木が続いています。

にぎわいのある東八道路(新川 6-37)

◆東八道路

市の東西都市軸である東八道路は、広い歩道と街路樹が整備されたにぎわいの景観の骨格です。

コミュニティ

◆初期の住宅地開発の歴史を感じる東野住宅

東野住宅は、太平洋戦争開戦を目前に次々と軍需関連企業の大工場が建設されたことを契機に建設された４つの住宅地の内の一つです。東野公園を中心に商店街や児童館などがあり、ふれあいのあるコミュニティを形成しています。

初期の住宅地開発の面影を残す東野住宅
(深大寺２丁目)

◆地域のシンボルである大銀杏や並木

広々とした空間を持つ深大寺公園の大銀杏は、地域のシンボルとして、親しまれています。雌木なのでギンナンもたくさんなります。

また、人見街道のケヤキ並木や第二中学校入口の桜並木も、地域のシンボルとして、親しまれています。

地域のシンボルである深大寺公園の大銀杏(深大寺 3-15)

②西部住区の景観の課題

【農地のマンション化】

農地は、相続などで徐々にマンションなどに変わってきています。マンションなどを建設する際も、周辺の農地やまち並みに配慮することで、西部住区の良好な景観を保全、育成していく工夫が求められています。

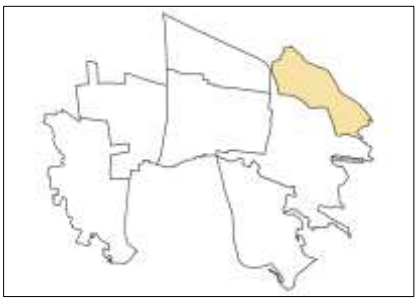
【農地や社寺、屋敷林と調和したまち並みづくり】

農地や屋敷林と調和したまち並みづくりのため、住宅地開発などの際に、既存樹木を残すなど、地域固有の景観を守り、育てる配慮が求められています。

【井口グラウンド周辺地区のまちづくり】

「井口グラウンド土地利用構想」に基づき、井口グラウンドを利活用し、一時避難場所となる恒久的なグラウンドの整備を行うとともに、医療機関の誘致による市内医療体制の拡充を目指しています。また、前面道路（武蔵境通り）の街路樹に配慮しつつ、連続した緑化を確保することで、潤いのある緑豊かな環境を創出していくことが求められています。

（４）井の頭住区



井の頭恩賜公園、神田川及び玉川上水に囲まれ、緑や水に恵まれた井の頭住区は、江戸時代、徳川家光が鷹狩りにこの地に立ち寄り、湧水がほとばしるように出ているのを見て、「井の頭」と命名したと伝えられています。

住区内には、京王井の頭線が神田川に沿って走り、都心への通勤等の利便性が高い閑静な住宅地であり、多くの文化財も現存しています。

三鷹台駅前や井の頭公園駅前、井の頭公園通りでは、路線型の商店街がにぎわいのある景観をつくっています。

小中学校の校歌には、「玉川のきらめく水」、「カワセミ」及び「水美しく」など、玉川上水、神田川及び井の頭池を思わせる歌詞が見られます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
三鷹の森学園	・玉川のきらめく水 ・カワセミ ・牟礼の丘	・たなびく雲 ・キジバト	・のぼる朝日 ・ハヤブサ
第五小学校	・武蔵野 ・朝日かがやき	・風かおる ・緑の丘べ	・水美しく ・鳥うたう

①井の頭住区の景観の特性

自然

◆井の頭恩賜公園、神田川及び玉川上水

井の頭住区は、井の頭恩賜公園、神田川及び玉川上水の緑の拠点や軸に囲まれています。神田川の水源は井の頭池にあり、井の頭公園駅付近には、親水空間も形成されています。

また、河川に沿ってつくられた遊歩道に面した住宅では、生け垣などの緑化の配慮が施されているものが多く、緑と水を感じる景観が形成されています。

さらに、周辺の住宅地から神田川に向かっては緩やかな傾斜があり、神田川の谷地形を感じることができます。

玉川上水は、井の頭恩賜公園西園を抜けて、井の頭住区の南西端を流れています。神田川と同様に両側は遊歩道が整備されており、緑に囲まれた土の道は、周辺の人々の散歩道となっています。

神田川周辺の緑

農

◆玉川上水の周辺に残る農地や竹林

利便性の高さから住宅地が広がる井の頭住区ですが、玉川上水の周辺には、農地や竹林が残っています。地形に沿って流れる玉川上水や水路跡に挟まれ、不整形な農地や竹林が点在しています。

井の頭地区のまちなかの農地

歴史・文化

◆井の頭住区の文化財

井の頭住区には、都指定の文化財となっている井の頭池（神田上水水源地）、井の頭池遺跡群をはじめ、市指定の石造物、国登録文化財の住宅など、数多くの文化財が残っています。

住宅地に残る登録文化財の住宅
（井の頭 3-24 付近）

にぎわい

◆三鷹台駅前、井の頭公園駅前及び井の頭公園通りの商店街

三鷹台駅前では、三鷹台駅前通りの整備に伴う商店街の景観づくりが進められています。歩行者中心の道路空間となるよう駅前広場の一部を「歩行者利便増進道路(ほこみち)」に指定して、イベント等を開催することで、さらなる地域の活性化を図ります。

また、井の頭公園駅前及び井の頭公園通りでは、商店街のにぎわいある景観が続いています。

三鷹台駅前広場における盆踊り大会

神田川こいのぼり祭り

コミュニティ

◆利便性の高い、閑静な住宅地

京王井の頭線沿線に位置し、利便性の高い井の頭住区は、閑静な住宅地のまち並みが広がっています。生け垣や庭先の植栽などにより、緑豊かなまち並みが形成されている箇所が多く見られます。

◆農業用水路跡

農業用水路跡は、遊歩道として整備され、中には裏路地が趣のある景観を形成しているところがあります。

◆井の頭公園駅前の桜並木など、地域のシンボルとなっている樹木

井の頭公園駅前の桜並木や三鷹台児童公園の桜など、地域のシンボルとなる樹木が見られます。

②井の頭住区の景観の課題

【商店街の景観づくり】

道路の整備などに合わせて、地域コミュニティの拠点でもある商店街のにぎわいのある景観づくりが求められています。

【神田川、玉川上水と調和した低層のまち並みづくり】

神田川や玉川上水の緑に囲まれた閑静な低層の住宅地や井の頭公園駅付近などの１区画ごとの敷地が広く、ゆとりのあるまち並みを維持するとともに、個々の住宅での生け垣の整備や緑化などにより、緑豊かな景観を創出していくことが求められています。

（５）新川中原住区

新川中原住区は、新川地区の大部分と中原地区の全域からなる住区です。

新川地区は、仙川を中心に緩やかな起伏を持ち、周辺には農地などが残っています。丸池周辺は市民参加により、丸池の里として整備されており、市民に親しまれる場所となっています。また、杏林大学や新川・島屋敷通り団地など、大規模な土地利用が見られることも特徴です。

中原地区は、崖線を含む起伏のある地区です。住宅地が全体的に広がり、崖線には斜面緑地が残っています。また、崖線下には、暗渠となった中仙川の上に遊歩道が整備されています。

小中学校の校歌には、「仙川」などの景観資源や近年まで武蔵野を代表する花とされ、古今和歌集にも詠まれた「紫草」も唄われています。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
鷹南学園	・太陽 ・青空	・ゆれる緑 ・風	・ゆたかにあふれる水 ・大空はばたく鷹
中原小学校	・武蔵野 ・花	・西空 ・富士の嶺	・中嶋の杜 ・風薫る
東台小学校	・樟の芽ぶき ・光	・仙川	・山
第五中学校	・三鷹 ・野川のひかり	・むらさきぐさ	・花

① 新川中原住区の景観の特性

自然

◆仙川を中心につながる緑と水

仙川を中心に、「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」から農業公園、仙川平和公園、新川丸池公園及び丸池の里、新川天神山青少年広場、仙川下流までの連続した大きな緑と水のつながりを「緑と水の連続空間」として位置づけています。特に、丸池の里は、地域の人々が管理に関わり、自然に触れ合える場所となっています。

三鷹中央防災公園・元気創造プラザ
(新川 6-37)

多くの緑地、公園が接する仙川の景観

◆中仙川遊歩道と国分寺崖線

暗渠となった中仙川は野川の支流で、中原地区においてなだらかな崖線を形成しています。住宅市街地化が進んでいますが、斜面緑地もわずかに残っています。

農

◆新川・中原地区の農地

新川・中原地区は、南側の崖線を除き、平坦な地形が広がっています。農地は、大学や新川・島屋敷通り団地など、大規模な敷地を除く平地に広がっています。

中原地区の農地と屋敷

◆丸池田んぼ

丸池の里の一角を利用した「丸池田んぼ」では、小学生が地域のボランティアの方々を介して田植えや稲刈りを体験する姿を見ることができます。

まるいけたんぼ(新川 5-1)

歴史・文化

◆地域の人々に親しまれてきた勝淵神社の鎮守の森

勝淵神社は、地域の人々に昔から雨乞いの水神社「明神様」と呼ばれて親しまれてきた神社であるとともに、鎮守の森として次世代に継承すべき緑地も残っています。

勝淵神社(新川 3-20)

にぎわい

◆大学や公共施設、集合住宅団地

吉祥寺通りの西側には、杏林大学や都立三鷹中等教育学校などの教育施設や研究機関などが集まっており、大規模な敷地を生かし、通りに面して緑化などの配慮が施された景観が見られます。

杏林大学病院(新川 6-20)

◆幹線道路の街路樹や緑地帯

東八道路や吉祥寺通り沿いには街路樹が整備され、緑を感じる幹線道路がつくられています。

また、中央自動車道の高架の脇には、緑地帯が設けられています。

コミュニティ

◆起伏のある住宅地を通る中仙川遊歩道

中仙川遊歩道は、中仙川が暗渠になった上に整備されています。起伏のある住宅地の中で谷線を通っており、単独で歩行者向けの通路となっている場所と道路の歩道部分となっている場所があります。

雑木林が残る中原雑木林公園(中原 4-26)

また、周囲には、中原雑木林公園や中原緑地などの雑木林が残っています。ともに斜面地にあり、良好な眺望が開けています。

◆新川・島屋敷通り団地

戦後、急激な宅地化の進んだ新川中原住区の象徴であった、新川・島屋敷通り団地は、高齢化の進行など社会状況に対応するため、地域ケア拠点としての整備が進められました。

◆崖線の緑と坂のまち並み

中仙川に沿った崖線周辺では、地形にそった不整形な街区に住宅地が広がっており、緑と坂のまち並みが見られます。

②新川中原住区の景観の課題

【緑と水に調和した配慮】

仙川を軸に連続する丸池の里などの公園・緑地の周辺には、農地や住宅地が広がっており、道路境界部の緑化などにより、緑と水に調和した配慮が求められています。

【緑豊かな住宅地のまち並みづくり】

中仙川に沿った崖線の周辺では、比較的密集した住宅地が広がっています。緑や坂の多いまち並みに調和するよう、敷地境界や擁壁の緑化などによる緑豊かな住宅地のまち並みづくりが求められています。

【農地や雑木林、斜面緑地の保全】

農地や雑木林は徐々に減少しており、斜面緑地も人の手を加えながらの維持が必要です。自然や農のある風景を象徴するこれらの資源を守り、育てていくことが求められています。

【環境センター跡地周辺のまちづくり】

環境センター跡地周辺においては、環境センターの解体、古着等のストックヤード及びスポーツ施設の整備を含めた跡地利活用に向けた検討が必要です。

（６）連雀住区

連雀住区は、市の中心部に位置し、市役所をはじめ公益施設が集約しています。交通の便も良く、工場や企業など、多くの産業が立地しており、住宅と工場、企業が共存しています。

連雀通り沿いには、古くから路線型の商店街が発達し、市の中心部として、産業や商業、住宅など様々な活気ある営みが混在しています。

また、芸術文化の拠点として、芸術文化センターも立地しています。

小中学校の校歌には、「桜並木道」や「けやきの幹」など、地域に象徴的に見られる並木などが唄われています。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
連雀学園	・大きな空 ・夕焼け空	・星	・桜並木道
三鷹中央学園	・風 ・大空	・花咲き ・風薫る	・太陽
第六小学校	・緑 ・むさしの ・雲あおく	・風そよぐ ・空	・鷹 ・花
南浦小学校	・大空 ・鳥	・ただよう雲	・木々の葉
第七小学校	・武蔵野 ・みどり ・白雲	・空 ・朝富士	・さくらの花 ・けやきの幹
第一中学校	・富士 ・むさしの	・麦の丘 ・雲	・土の香り ・大地

①連雀住区の景観の特性

自然

◆まちなかを通る仙川の流れ

人見街道以北を流れる仙川は、水量もほとんどなく、川幅も狭い三面張りの河川です。また、工場が建ち並ぶ中心部では暗渠となっています。

農

◆まちなかに残る農地

上連雀地区や下連雀地区の仙川周辺には、比較的多くの農地が残っており、まちなかの貴重な緑となっています。

連雀地区のまちなかの農地

歴史・文化

◆まちなかを通る人見街道

連雀住区の人見街道は、沿道に市民センターなどを配し、現在も人々の生活に欠かせない道となっています。

◆歴史とにぎわいを感じる連雀通り

連雀通りは、三鷹通りより東側では、商店街が見られ、西側には歴史的面影を感じる屋敷林や並木、土蔵などが残っています。

三鷹通りとの交差点付近には、八幡大神社と禅林寺が、連雀通りに面して立地しています。

地域の鎮守が祀られた八幡大神社
（下連雀 4-18）

また、連雀通りの脇には、庚申塔や地蔵菩薩・廻国塔など地域の人々に愛されている石造物が現存しています。

◆芸術文化センター周辺

芸術文化センターと南側の連雀中央公園は、一体的な整備が行われています。市の芸術文化の拠点として、周辺の住環境と調和した景観がつくられています。

にぎわい

◆元気な地域の商店街

連雀通り、山中通り及び仲町通りなどでは、元気な路線型の商店街のまち並みが続き、にぎわいのある景観をつくりだしています。

◆桜のトンネル三鷹通り

市民センター付近の三鷹通りは、桜並木がトンネル状に街路を覆い、四季の変化を楽しめる景観をつくっています。

◆マンション化の進む吉祥寺通り

吉祥寺通り沿道は、マンション化が進んでいます。マンションは大きくセットバックしているものが多く、快適な歩行空間と緑豊かな植栽の整備された沿道の景観がつくられています。一方、連雀通りとの交差点より北側の沿道には、昭和の雰囲気を残すレトロな商店街も残っています。

◆市民が集い、憩う市民センター

市民センター周辺には、市役所や三鷹中央防災公園・元気創造プラザをはじめ多くの公益施設が立地しています。庁舎の建替えについては、市民が親しめ交流できる緑豊かな空間の創出、交通ネットワークの拠点となる機能など、地域のまちづくりや周辺環境の向上に資する整備をめざし検討していくこととしています。

◆住工共存のまち並み

下連雀地区の工場とマンションなどが混在するエリアでは、敷地の境界部分に緑地の緩衝帯を設けるなど、住工が共存するための様々な配慮が施されています。

緩衝緑地などが設けられた
住工共存の景観(下連雀 7-5 付近)

コミュニティ

◆初期の住宅開発の歴史を感じる山中住宅

山中住宅は、太平洋戦争開戦を目前に次々と軍需関連企業の大工場が建設されたことを契機に、住宅営団によって建設された４つの住宅地の内の一つです。現在も所々に昭和初期に建設された住宅地の面影を感じることができます。

◆連雀中央公園などのコミュニティの中の公園

連雀中央公園や下連雀鷹の子児童公園など、市街化の進む連雀住区では、公園が貴重な緑や憩いの場となっています。

地域の憩いの場になっている連雀中央公園
（上連雀 6-14）

②連雀住区の景観の課題

【商店街の景観づくり】

連雀通りの整備などに伴い、にぎわいのある商店街の景観づくりが求められています。

【住工共存、土地利用転換に伴う景観づくり】

住工共存のまち並みにおいては、提供公園や緩衝緑地帯の整備など、マンションや工場を建設の際に周囲のまち並みに配慮することが求められています。

【農地の保全】

営農できる環境の整備だけでなく、市街地の貴重な緑でもあるまちなかの農地を保全していくことが、求められています。

【拠点となる市民センターや芸術文化センターの景観づくり】

「三鷹中央防災公園・元気創造プラザ」が整備された市民センターや芸術文化センター周辺は、市民が集い、憩いの場の充実が求められています。

（７）三鷹駅周辺住区

三鷹駅周辺住区は、市の玄関口である三鷹駅があり、本市で最も人口密度が高い住区です。市の商業の中心地ですが、それと同時に地域の大部分は密集した住宅地であり、商業と住宅が混在した土地利用となっています。

三鷹駅南口周辺の約 17ha の区域は、再開発を積極的に進めていく区域に定められています。

三鷹駅前地区や風の散歩道には、文学者ゆかりの場所も多く残されています。

小中学校の校歌では、「玉の泉」という表現や「小みちの花」という市街地らしいまちなかの小さな緑を唄った内容が見られます。

学園歌や小中学校の校歌に見る景観

学校名	校歌の中の景観を表現した歌詞		
三鷹中央学園	・風 ・大空	・花咲き ・風薫る	・太陽
連雀学園	・大きな空 ・夕焼け空	・星	・桜並木道
第三小学校	・空 ・薫る双葉	・若鷹 ・武蔵ひろ原	・風
第四小学校	・青い空 ・雲間 ・富士	・子鳩 ・玉の泉 ・水かがみ	・小みちの花 ・野に山に
第四中学校	・富士 ・空 ・緑	・若木 ・あの森この丘 ・つるばら	・多摩の山脈 ・武蔵野

①三鷹駅周辺住区の景観の特性

自然

◆樹々の緑豊かな玉川上水

三鷹駅周辺住区の北端には、樹々の緑が豊かな玉川上水が流れています。三鷹駅

の北側では、沿道は土の散策路となっており、三鷹駅の南側は、風の散歩道として整備されています。三鷹駅付近では暗渠となっています。また、三鷹駅周辺、風の散歩道、井の頭の森、三鷹の森ジブリ美術館までの連続した大きな緑と水のつながりを「緑と水の連続空間」として位置づけています。

◆親水空間が整備されている仙川

三鷹駅周辺住区を流れる仙川は、水量もほとんどなく、川幅も狭い三面張りの河川ですが、水源の森あけぼのふれあい公園では、親水空間が整備されています。

農

◆上連雀地区の農地

上連雀地区の玉川上水の周辺などには、比較的多くの農地が残っており、まちなかの貴重な緑となっています。

三鷹の森ジブリ美術館(下連雀 1-1)

歴史・文化

◆風の散歩道と三鷹の森ジブリ美術館

三鷹駅から井の頭恩賜公園西園までの玉川上水に沿って、風の散歩道が整備されています。「三鷹の森ジブリ美術館」へ向かう動線として、統一された景観づくりが行われています。

太宰治ゆかりの三鷹こ線人道橋(上連雀 1-10 付近)

◆文学者ゆかりの景観

山本有三の住んだ洋風建築である「山本有三記念館」や太宰治ゆかりのさるすべりの木が移植された「みたか井心亭」など、三鷹駅周辺住区には、多くの文学者ゆかりの景観が残されています。

太宰治ゆかりの三鷹こ線人道橋では、行きかう電車を眺める子ども連れの姿も見られましたが、老朽化のため解体・撤去し、一部を保存する予定です。

◆市街地を斜めに通る品川用水跡

品川用水跡であるさくら通りは、中心市街地を斜めに通り、中央通りとの交差点などにおいて鋭角な敷地をつくり、市街地の景観に変化を与えています。

にぎわい

◆にぎわいの骨格となる三鷹駅前地区

三鷹駅前地区は、南北に長い短冊状の街区構成で、南北に強い軸性を持っています。南北の主要な通りは、中央通りと三鷹通りです。中央通りは、三鷹駅南口駅前広場と連雀通りを結んでおり、夏の風物詩である「三鷹阿波おどり」の会場にもなっています。一方、三鷹通りは、武蔵野市と調布市を結ぶ広域道路であり、三鷹駅や芸術文化センターを結ぶ南北軸となっています。

三鷹駅南口広場は、玉川上水と一体的に整備され、玉川上水がそのモニュメントとなっており、「緑と水の公園都市」の玄関口を形成しています。

また、三鷹駅前地区の約 17ha は、令和４年度に策定された「三鷹駅前地区まちづくり基本構想」の対象区域に位置付けられるとともに、現在は三鷹産業プラザの機能強化や区域内幹線道路の整備などが進められ、魅力的な買い物空間やにぎわいのあるまち並みの形成を目指しています。

コミュニティ

◆初期の住宅地開発の歴史を感じる曙住宅と共栄会

曙住宅と共栄会は、太平洋戦争開戦を目前に次々と軍需関連企業の大工場が建設されたことを契機に、住宅営団によって建設された住宅地です。現在も所々で昭和初期に建設された住宅地の面影を感じることができ、曙住宅の市道第 99 号線桜並木は、地域の人々に愛される景観資源として育まれています。

◆初期の住宅地開発の歴史を感じる南井の頭田園住宅

南井の頭田園住宅地は、大正 12(1923)年の関東大震災に心動かされた大地主の渡

緑豊かな南井の頭田園住宅のまち並み
（下連雀 1-34 付近）

辺萬助によって、災害に強い住宅地をつくろうと計画されたものです。敷地規模が大きく、庭木などにより、緑豊かな住宅地のまち並みが、現在も維持されています。

堀合遊歩道(上連雀１丁目)

◆堀合遊歩道

堀合遊歩道は、昭和 26(1951)年に開業した国鉄の武蔵野競技場線の跡が緑道になったものです。JR 三鷹駅車庫から玉川上水まで続く緑道は、桜を主とした並木道となっています。

②三鷹駅周辺住区の景観の課題

【再開発等による三鷹駅前地区の景観づくり】

三鷹駅前地区については、令和４年度に策定された「三鷹駅前地区まちづくり基本構想」において、“子どもの森（仮称）”をコンセプトとした三鷹駅南口中央通り東地区再開発事業により広場空間の整備や緑化の推進を図り、市全体を「緑のまち」にする“百年の森”構想の実現への第一歩とするとしています。

そのため、市民活動への支援や重点的に緑化を進めるエリア、路線を設定するなど、市が積極的に関わることで、三鷹駅前地区を「緑と水の公園都市」にふさわしい、緑あふれるまち並みにしていくことが必要です。

【文化の景観の保全と育成】

風の散歩道など、芸術や文学者ゆかりの地を訪ねる観光ルートの魅力を高めるために、その周辺では、文化・観光の機能を持った土地利用や観光ルート周辺にふさわしい景観の誘導が求められます。